

第94回 スペインの衰退とオランダの繁栄

1 スペインの衰退

- ・16世紀後半、スペインは（ ）のもとで最盛期を迎えていたが、治世の後半には衰退の兆しが見え始めていた。



誰でしょう？
第91回のプリントを、よく復習しよう。
狂信的なカトリックであった。

- (1) 1568年に始まる（ ）独立運動の鎮圧や、オスマン帝国との戦いによって、スペインは極度の財政難におちいった。
- (2) 1588年、（ ）で、（ ）がイギリス海軍に敗れた。
→これにより大西洋の制海権を失った。
- (3) スペインのフェリペ2世は、カトリック政策を強力に推し進め、国内にいたユダヤ教徒やイスラーム教徒を追放した。
→商業を担っていたユダヤ商人やムスリム商人がいなくなり、商業が停滞した。

2 オランダ独立戦争

- ・フランドル地方を中心とするネーデルラントは、中世から（ ）や、北海・バルト海における中継貿易で経済的に栄えていた。
→特に（ ）は、国際商業の中心地として繁栄していた。
- ・15世紀の後半からは、スペイン=ハプスブルク家の領土となっていた。

- ・商業の発達したネーデルラントでは、宗教的に（ ）が多かった。
→16世紀後半、スペインのフェリペ2世は、カトリックをネーデルラントに強制する政策をとるようになった。
→1568年、ネーデルラントは（ ）を指導者とし、スペインの支配に対して（ ）を起こした。



アントウェルペンとそこを舞台にしたアニメ



このアニメの有名なラストシーン、アントウェルペンの大聖堂が舞台である。ルーベンスの絵画が飾られていることでも知られる。



オラニエ公ウイレム

あることをきっかけに、沈黙公と呼ばれるようになった。独立戦争後は、その首に莫大な懸賞金がかけられた。現在のオランダ国歌にも名前が出てくる。

- ・ネーデルラントのうち、比較的カトリックが多かった（ ）は、独立をあきらめてスペイン領にとどまった。
→後の（ ）のもととなった。
- ・一方カルヴァン派が多かった（ ）は、（ ）を中心に（ ）を結成し、独立戦争を戦い続けた。
→1581年、独立宣言を出し、ネーデルラント連邦共和国の独立を宣言した。

3 オランダの繁栄

- ・オランダ独立戦争の際、アントウェルペン(アンтверペン)は戦場となって荒廃してしまった。
→北部のアムステルダムやロッテルダムが、商業の中心地となった。

☆ () (1581~1795年) ※正式承認は1648年
都… () ※現在もオランダの首都

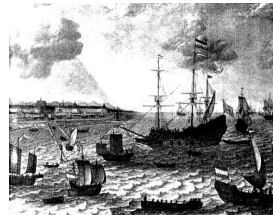
- ・1609年、スペインと休戦条約を結び、事実上の独立を達成した。
- ・オラニエ公ウィレムとその子孫が、オランダ総督として最高官職についた。



現在のアムステルダム



ネーデルラントとはオランダ語で「低地の国」という意味であり、国土の4分の1が海面下にある。そのため排水用に風車が建設された。



17世紀半ばのバタヴィア

バタヴィアはジャワ島の西部に位置し、原住民のバタウィ族にちなむとされている。ジャカルタという名は、日本軍がつけた名前である。

- ・オランダ商人は、1602年に ()、1617年に西インド会社を設立し、海外に進出していった。

- ・ () の () をアジア貿易の拠点とした。
- ・マラッカ、モルッカ諸島、セイロン島を、 () から奪った。
→1623年には、 () によって、イギリスも排除した。
→これにより東南アジアにおける香辛料貿易を、オランダが独占した。

- ・また中国の ()、北米の () を中心とするニューネーデルラント植民地、南アフリカの () などを支配した。
→17世紀前半、オランダは世界貿易の覇権をにぎり、覇権国家となった。

<オランダの市民文化>

- ・豊かになったオランダでは、自国の絵画、中国や日本の陶磁器などが、盛んに買い求められた。
→「 () 」で知られる () やフェルメールは、この時代のオランダを代表する画家である。



伊万里焼

オランダ東インド会社製のものである。「VOC」というロゴはオランダ東インド会社を意味する。



レンブラント作「夜警」

レンブラントは、肖像画家として絶大な人気を得ていた。「夜警」は、肖像画にストーリーを加えるという大胆な手法により、彼の代表作となった。しかし皮肉にもこの作品がきっかけで、レンブラントの人気は急落することになる。



フェルメール作「真珠の耳飾りの女」

鮮やかな青は、ラピスラズリを原料とするウルトラマリンという絵の具で描かれ、後に「フェルメールの青」と呼ばれた。当時ラピスラズリは金よりも高いといわれていたため、フェルメールはその名声にもかかわらず、借金まみれだったという。